

## ぼくがみつけたちいさなしんせつ

福井県 惜陰小学校 1年 川畑 晴人

ぼくのおとうさんとおかあさんがはたらいているびょういんのエレベーターのなかに、小さいすがおいてあります。ぼくは、ずっとどうしてこんなところにすがおいてあるのか、ふしぎでした。なににつかうのかな。おとうさんにきいてみると、おとしよりやからだのふじゆうなかんじゃさんが、エレベーターにのっているあいだに、ちょっとこしかけたり、にもつをおいたりするんだよ、とおしえてくれました。ぼくはつかわないけど、ひつような人はいるんだな、しんせつないすなんだな、とおもいました。

なつやすみちゆう、おでかけしたときに、どんなばしょにしんせつないすがあるか、さがしてみることにしました。バスでい、びょういんのげたばこ、デパートやホテルのエレベーターのなか、えきのホーム、ほんやさん、おんせんのようにふくをぬぐところ。びっくりしたのが、おんせんの、からだをあらうところにもありました。おじいさんが、やすんでいました。

ぼくは、いままでぜんぜんきがつかなかったけど、さがしてみると、たくさんありました。ぼくは、げんきだからすわらなくてもいいけど、おとしよりやからだのわるい人にはとてもべんりなんだな、とおもいました。

それなら、もっといろいろなところにすをふやせばいいのでは、とおもいました。しんごうをまっているあいだにすわれるすがあればいいのに、とおもいました。でも、おかあさんが、

「いくらべんりでしんせつでも、みんなにきけんにならないばしょにおかなくてはだめなんだよ。しんせつって、やさしいきもちやおもいやりもないといけないんだよ。」

と、おしえてくれました。ぼくは、そうか、とおもいました。たしかにしんごうのところにすをおいたら、じてんしゃの人がぶつかってしまうかもしれないし、もしくるまがあぶないうんてんをしていたら、すわっている人はにげられないかもしれない。つかう人になってみないと、べんりでしんせつなものも、そうじゃなくなってしまうんだな、とおもいました。

ぼくは、知らない人にすることはちょっとにがてだけど、みつけることはできるとおもいました。まず、みつけて、そこからまなんで、やさしいきもちでできるようになればいいなとおもいました。